

## 長野県絶滅種コケリンドウの富士見町での生育確認

三石 稔<sup>1</sup>・尾関雅章<sup>2</sup>

長野県版レッドリストで絶滅とされたリンドウ科の草本植物コケリンドウが富士見町に生育することが2010年に確認された。確認された生育地はシバ草地1ヶ所で、開花個体数は10個体未満であった。

キーワード：長野県版レッドリスト，絶滅，再確認，リンドウ科，草地

### 1. はじめに

コケリンドウ（リンドウ科リンドウ属）*Gentiana squarrosa* Leodeb. は、日当たりのよい草地に生育する越年生草本である。高さ3～10cmと小型で、ロゼット状の根生葉をもち、花冠は筒状、長さ10～15mm、淡青紫、先は5裂し、小型の副片がある。日本の本州、四国、九州に分布するほか、朝鮮半島、中国大陸、台湾、インド北部、シベリアに分布する<sup>1)</sup>。根生葉が茎葉より大きい点はハルリンドウに似ているが、萼裂片の先が反り返ることなど<sup>2)</sup>により区別される。

長野県におけるコケリンドウの記録は、『長野県植物誌<sup>2)</sup>』で引用された軽井沢町(1919年, 1920年)、松本市(1936年)、木曽福島町(1928年)で採集された標本のほか、『長野県植物誌資料集CDROM<sup>3)</sup>』に朝日村(1928年)、望月町(現佐久市)(1926年)、茅野市(1923年, 1930年)で採集記録がある。長野県版レッドリスト<sup>4)</sup>作成時には、1928年以後の標本記録がなかったことから、同リストにおいて絶滅種とされた。

また、長野県の周辺地域の生育状況は、山梨県<sup>5)</sup>で広く分布し普通、群馬県<sup>6)</sup>ではまれで県版レッドリスト<sup>7)</sup>で絶滅危惧IA類、愛知県では県版レッドリスト<sup>8)</sup>で滅危惧II類、岐阜県<sup>9)</sup>では県版レッドリストで情報不足となっている。

筆者の一人三石は、2010年にコケリンドウが長野県富士見町内に生育していることを確認した。その後、2012年に生育地で現地調査を行ったので、これまで長野県版レッドリスト<sup>4)</sup>で絶滅種とされて

いたコケリンドウの長野県内での生育確認とその生育状況を報告する。

### 2. 調査地及び方法

2010年に筆者が確認したコケリンドウの富士見町内の生育地で、2012年7月18日に再度生育の有無と生育状況の確認を行った。生育状況の確認は、長野県版レッドリスト改訂調査に準拠して行い、生育地の面積(概数)、生育地内の個体数および開花個体数、個体数の増減、生育地の位置座標、標高、生育環境(植生タイプと同所的に生育している種)を記録した。なお、生育地内の個体数および開花個体数は、0:なし・1:9個体以下・2:10～100個体・3:100～1000個体・4:1000個体以上の階級値(個体数ランク)で記録した。また、生育地の現況および本種の特徴から個体数減少の要因を推定した。

### 3. 結果及び考察

2012年の現地調査において、富士見町内でコケリンドウの生育を再度確認した(図1)。証拠標本:コケリンドウ、長野県富士見町立沢海拔高度1160m(尾関雅章・三石稔 s.n., 2012年7月18日, NAC 収蔵予定)。

生育地は山地帯の人工草地(児童公園に隣接した管理されたシバ草地)である。コケリンドウは、草地内でシバ、シロツメクサ、オオバコ、セイヨウタンポポ、メマツヨイグサ、ナガハグサと混生し、ゆ

1 〒399-3301 下伊那郡松川町上片桐 2626-24

2 長野県環境保全研究所 自然環境部 〒381-0075 長野市北郷 2054-120

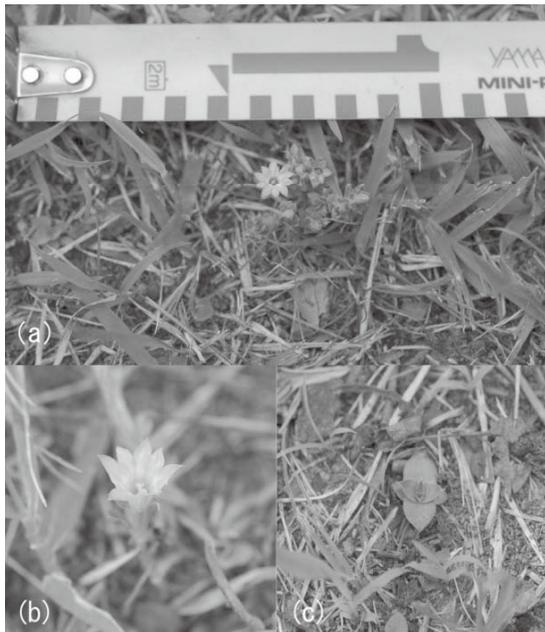


図1 富士見町で確認されたコケリンドウ  
(撮影:2012年7月18日). (a) 全草, (b) 花冠および萼裂片, (c) ロゼット状の根生葉. スケールは1cm目盛り.

るやかな斑状の集団を形成して生育していた。また、生育地は、草地内に限られ、草地周辺にみられるアカマツの優占する高木林下では確認されなかった。生育地の大きさは、およそ5m×10mの範囲で、生育地内の個体数は、開花個体数がランク1（9個体以下）、未開花個体を含めるとランク2（10～100個体）であった。同生育地内では2010年に10個体以上の開花個体が確認されている。しかし、個体数の増減については、その年変動も考慮する必要があることから、今調査では不明と判断した。

今回確認された生育地では、これまでコケリンドウの生育が確認されておらず、生育経過は不明であるものの、生育地内に人為的に植栽された状況は認められなかった。隣接地域の山梨県では、比較的広く分布していることから、近年移入した可能性も考えられる。

コケリンドウは、小型の草本であるため、踏み付けによる直接的な影響のほか、大型の草本や木本が繁茂した場合にはその被陰により減少することが危惧される。また、生育地が二次的な自然環境下で人の居住地にも近いことから、生育地にかかる土地の

造成工事により、生育地の消失や改変による減少も考えられる。

愛知県では、本種の保全上の留意点として、生育地を、丈の低い草地状態のまま保全することとしている<sup>8)</sup>。富士見町で確認された生育地も、シバ等に刈り跡がみられたことから、シバ草地の維持管理のための除草が実施されていることが推定された。そのため、この生育地においても、コケリンドウの保全にあたっては、現在の生育環境である草丈の低いシバ草地を維持することが必要と考えられる。

## 文 献

- 1) 佐竹義輔（1999）リンドウ科. 佐竹義輔・大井次三郎・北村四郎・亘理俊次・富成忠夫（編）「日本の野生植物草本 III 合弁花類」, pp. 28-35. 平凡社, 東京.
- 2) 長野県植物誌編纂委員会（編）（1997）長野県植物誌. 信濃毎日新聞社, 長野.
- 3) 長野県植物誌資料集作成委員会（2005）長野県植物誌資料集 CD-ROM.
- 4) 長野県（2002）長野県版レッドデータブック～長野県の絶滅のおそれのある野生生物～維管束植物編. 長野県.
- 5) 山梨県植物誌編集委員会編（1982）山梨県植物誌. 山梨県.
- 6) 群馬県高等学校教育研究会生物部会・「群馬県植物誌改訂版」編集委員会（1987）群馬県植物誌改訂版. 群馬県.
- 7) 群馬県（2012）群馬県の絶滅のおそれのある野生生物植物編（2012年改訂版）植物レッドリスト（2012年改訂版）：  
<http://www.pref.gunma.jp/04/e2300266.html>  
（2013年1月確認）.
- 8) 愛知県環境調査センター編（2009）愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブック あいち 2009－植物編－. 愛知県.
- 9) 岐阜県編（2001）岐阜県の絶滅のおそれのある野生生物－岐阜県レッドデータブック－. 岐阜県.

Rediscovery of the regional extinct species *Gentiana squarrosa*  
Leodeb. in Fujimi Town, Nagano Prefecture

Minoru MITSUISHI<sup>1</sup> and Masaaki OZEKI<sup>2</sup>

1 2626-24 Kamikatagiri, Matsukawa 399-3301, Japan

2 Nagano Environmental Conservation Research Institute, Natural Environment Division,  
2054-120 Kitago, Nagano 381-0075, Japan